川口町公民館報
公民館報
第73号
発行人 古田島 正
編集人 金子 實
印刷所 山口堂印刷所

完全給食へ第一歩

―川口小学校に給食施設を整備―

川口町教育長 古田島 正

学校教育施設整備五ケ年計画の懸案でありました完全給食施設の第一年次を愈々開始することになりました。

既に設計も出来上り、入札も終って川口小学校管理棟の西側、従来の設計にあって建築を見合わされていた部分に東北工業が施工することになりました。

建築面積 一二八、一平方米 鉄骨平家建

内部設備には回転式釜四基食器洗滌機、湯沸ボイラー 野菜裁断機、球根皮むき機二基式ミルク釜、フライヤー（揚物機）等燃料にはガスを使用し、鉄筋校舎の二階三階にはリフトによって運搬を容易にしたのがあります。

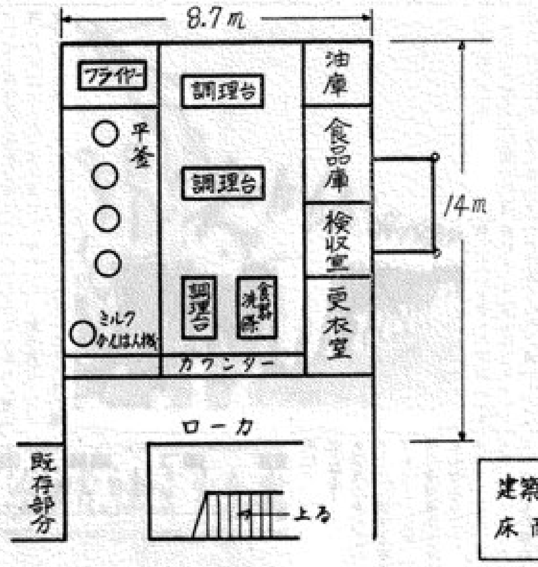
この設備で調理可能人員は八〇〇人の能力を持つもので総工費六百二十万円（備品を除く）で八月末に完成して二学期から給食を開始する予定であります。

さて学校給食が、成長期にある児童、生徒のすべての発育に効果的であることは周知の通りであり、これよって更に健康管理と体力が向上することを期するのであります。

おくれた給食施設は年次計画によって、更に之を短縮することを考えながら川口町全部の学校に実施したいと考えているのであります。

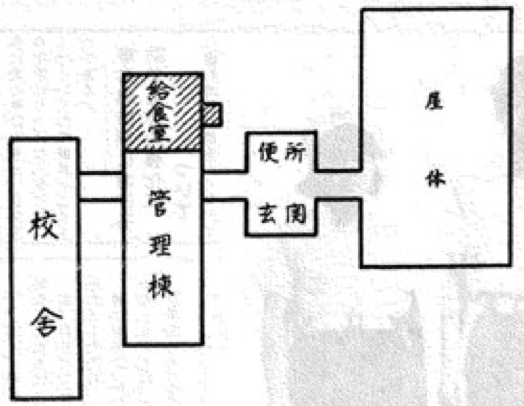
しかしながらこの給食によって毎月児童一人当り六〇〇円程度の負担をすることになろうと思いますのでPTAの御協力を特にお願いしたいのであります。

川口小学校給食室平面図及び配置図



（平面図）

建築面積 128.1m²
床面積 121.8m²



（配置図）

みんなで結核検診をうけよう!!

・結核患者はどれくらいいるか

結核は伝染病であり、治すのに長い時間と多くの金を必要とするので、どこの国でも社会病として扱われ、結核を減らすためにそれぞれ対策をたて、たゆみない努力が払われている。

正しい結核対策をたて、それを効果的にすゝめている現在では、昔と比べて結核患者は減ったが、それでも五十世帯中一世帯に結核患者がいることになっている。とすると私どもの日常生活で接する身のまわりにも結核患者がいることになる。この割合は文明国の中で比べるとまだまだ高い割合である。

・結核患者数の階層別は

患者数は減ったというけれど、減ったのはもっぱら若い世代で、壮年層では減り方はあまり著明でなく老年層では減るどころか逆にふえている。

・結核はどうしてうつるか

結核は空気を介して起こる伝染病であり結核菌は主に結核の患者が咳をしたり声でしゃべったり、笑ったり、くしゃみをしたときに空気中にばらまかれる。その菌を直接すいこむと体に抵抗力のない人はうつることになる。

しかしすべての肺結核患者がいつもだれでも菌をばらまいているわけではない。肺の中に空洞といって結核のために穴のあいている人か、穴はなくても容易に痰の中に結核菌の見つかるような患者が危険人物で、これを感染性患者とよんでいる。

・結核の減少を妨げる因子はなんだろうか

それは結核症の本質によるものであるとされている結核症の本質のうち重要なことは第一に空気を介してうつる伝染病であること。第二は、結核にかゝっても、相当進まないと特別の症状がないことである。第三は一度病気にかゝってしまうとなかなか自然には治らないということである。

必ず治療をしなくてはならないのであるが、現在の進歩した治療法をもってしても治すのに二年前後の長い期間を必要とすることである。

・あなたも結核にかかるも知れない

結核患者は全国で約二〇〇万人といわれている。約五〇人に一人、それなら私は大丈夫とたれでも考える。よしんば用心深い人があって念のため健康診断を受けたとしても、結核でないといわれるともう大丈夫と安心してしまう。この健康診断の結果はそのとき結核にかかっていなかったということの証明だけであって、今後絶対に結核にはかからないという保証にはならない。

・結核にかかつても自分では分らない

結核にかかっても相当病気が進行しないと症状が現われない。なぜ症状が現われないのだろうか。

一つの理由は肺の中に知覚神経がないせいである。小さな「おでき」も皮膚にできれば痛い。大きな空洞が肺の中にできても痛くも、かゆくもない。

もう一つの原因は、肺は重要な器管であるだけに予備能力が多いことが逆に症状を出にくくしているといわれる。

昔の小説に出てくる結核患者は、微熱が出て、軽い咳をし、血痰を出し、吐血する。蒼白くて痩せているというように描写されている場合が多い。今でも放っておけばこんな症状が現われる程重くなる。

・結核を治すのに一番大切なことは

早いうちに病気をみつけて、正しい治療を充分に受けることである。そうすれば期間も短くてすみ、治療費も安く、人にうつす心配も少ない。即ち早期診断、早期治療が絶対必要である。

・早くみつけるには

レントゲン診断である。国は結核予防法によって、毎年レントゲン間接撮影を実施して早期発見に努めている。昨年受けてなんともなかったから、今年はまだ大丈夫だと安心していてはいけない。昨年なんともなくとも一年の間に病気が進んでレントゲン写真にあらわれるようになるから毎年受けていなければ安心できない。

・今年のレントゲン撮影は

今年のレントゲン撮影は七月二十七日から八月十二日までの予定である。

ちかいうちに各部落の日割を定めて通知をするから一人のこらず（ツベルクリン陰性のものは除く）受けるようにして欲しい。

特に老年層では減るどころか患者がふえている状況をよく認識され、八十才、九十才の方といえども、歩ける限り受けて結核撲滅に協力願いたい。

子どもを水の事故から防ごう

夏です。子どもの大好きな水遊びのシーズンがきました しかし子どもの水の事故は依然としてあとを断ちません。子どもの事故死の約四〇％が川や用水池、ミゾなどへの転落死による溺死です。中でも三才から四才までの事故死亡率は溺死が最高です。

子どもの事故死ほど痛ましいものはありません。私たちは子どもの楽しみを失わずに、事故を起こさないように見守ってやりたいものです。

○用水池や古井戸など危険な場所には柵をつくる。
○海や川、プールへ行くときは大人が一緒に。
○いつも子どもの健康状態を知り、体の具合の悪いときは水泳などやめさせる。
○機会があったら人工呼吸などの救助法を知っておくことも必要。

明るく正しい選挙

七月四日は参議院議員選挙の投票日です。みんなこぞって投票しましょう。

参議院は衆議院とともに国会を構成している国権の最高機関であって、私達の生活を左右し、我が国の将来を決定する重要な役割をもっているのです。私達は日常の生活において、沢山の意見をもっていますが、この意見を国会に反影してくれる人を選ぶのが選挙なのです。投票しないで道路が悪いとか税金が、高いとか不平をいってもだめなのです。私達の意見を本当に国会に反影してくれるにはどんな人を選んだらよいか、よく考え、そして政見をよく聞いて信用のできる立派な人に投票しましょう。それぞれ仕事におわれて忙しいことと思いますが選挙の重要さを認識されて、寸暇を利用し投票所へ参りましょう。わざわざ服装を飾らないでも野良着で投票しましょう。（町選管委会）

スポーツ少年団をつくろう!!

……公民館各地区館単位に計画検討中……

少年に光と歓びを与え、自分を自主的にりっぱな人間に形づくっていく力を身につけさせようと、公民館では本年度より各地区館（八地区館）ごとにスポーツ少年団を結成し活動を開始する計画を進めている。具体的な活動は明年度からになろうが、本年度は、まずその組織づくりに力を入れる方針である。

これらの動きは全国的に進められているが、まだ底辺までは行きとどいていない実情で特に県としてもこの問題を重点施策として取り上げている。現在本県ではスポーツ少年団の登録団体一〇五、二、八六三名の団員が活躍している。

川口町においても前記の目的にそって計画を進めているが、各地区館長を中心に話し合いを進め、結成することに打合せがなされた。参考までにスポーツ少年団の作り方について紹介し、みなさんの御協力を切望する次第である。

スポーツ少年団の作り方

だれが？

▲12才から15才、つまり中学生が中心になって活動する。小学校上級生や16才～18才くらいの人が加わってもかまわない。人数が十人以上集まり適当な指導者がきまれば正式に登録できる。

なにを？

▲スポーツなら、なにを選んでもよい。陸上競技、水泳、スキー、スケート、テニス、バスケットボール、バレーボール、野球、卓球、体操、すもう、柔道、剣道、ソフトボール、サッカー、バドミントン、ハンドボールから、登山、キャンプ、徒歩旅行、サイクリングなど…このうち二種類くらいを選んで実施し又季節によって変えるのもよい。ただ団員みんなの望むものに

いつ？

▲活動の時期は、中学生が中心になるので、平日なら授業終了後、土曜日なら午後、日曜、祭日、春休み、夏休み、冬休みなどは大いに利用しよう。休暇以外は、週二～三回、一回一～二時間が適当と思う。毎日の生活にとけこんだスポーツ活動をすることが大切だ。

どこで？

▲団員の身ちかで、選んだスポーツに適する場所ならどこでも……。広場、校庭など。団の連絡場所をきめておこう

どんなふうに？

▲効果をあげ、団をりっぱなものにしていくためには、何といっても計画的に活動することだ。活動の日と場所が決まったら集合時刻を守り、きびきびした団活動をするように努めよう。団ごとに標語やモットーをきめるのもよい方法だと思う。

スポーツ少年団の目的は、少年に、限りなく伸びていく精神力を育てることである。

そして、その方針は、まず少年が自分で支配できる力、たとえば陸上を自由に走れるとか、水中を自由に泳げるとかいった、そのような新しい活力を身につけることだ。

この新しい活力こそは、少年に光と歓びを与え、自分を自主的にりっぱな人間に形づくっていく力の源泉となるものである。

日本スポーツ少年団綱領

わたくしたちは、健康なからだと、心を養い、次代を担う、りっぱな人間になります。

わたくしたちは、ルールを守り、他人に迷惑をかけず、進んで奉仕し、りっぱな社会人になります。

わたくしたちは、スポーツによって、限りなく伸びる、自分の力をつくり出すために努力します。

わたくしたちは、スポーツのなかで、友愛と協力と歓びを学び、わたくしたちの国と国民を愛します。

わたくしたちは、世界の友と力をあわせ、りっぱな世界をつくります。

春の農繁期における防犯活動の強化について

1. 農村地帯は都会にくらべて戸締りがゆるやかな傾向にあり、特に農繁期には留守になる家が多いため、あき巣どろぼうにねらわれやすいから、戸締りには十分注意すること。
2. 老人や子供だけの留守番には、昼間でも戸締りをよくし、必要以外の戸口には、カギをかけておくこと。
3. あき巣どろぼうは、来訪者を装って声をかけ、返事がないと、留守とみて侵入することがあるから、居留守をしないで、来訪者があるときは、必ず出てみること そして立ち去るまで確めること。
4. やむを得ず留守にするときは、現金の保管場所に注意し、方々へ分散しておくこと。
5. 夜間戸外に自転車、リヤカー、農機具などを放置しないように、よく整とんしておくこと。
6. 昼の疲れで夜はぐっすり寝入ってしまいやすいから、戸締りには念を入れ、忍込みなどの被害にかからないようにすること。
7. おとなが忙しいため、子供に対する注意がおろそかになり、それがもとで子供の水死事故や、火いたずらによる火災などが起きやすいから次の点に十分注意すること。
   ① 仕事と子守りを兼ねるときは、子供を川や堀などのない安全の場所に置き、もし附近に危い場所があるときは、子供がそこへ近づけないよう、柵や標等で、行動範囲を限定するような配慮をすること。
   ② 子供の火あそびに利用されやすい、マッチなどを子供の手の届くところへ置かないようにするとともに、火いたずらや火事の恐ろしさなどについて、十分言いきかせておくこと。
8. 農繁期には、農薬による死亡、その他の事故が発生しやすいので、農薬の使用や保存については十分に注意すること。また農薬が見えなくなったとか、紛失したとかいう場合には、すぐ警察へ届け出ること。

学窓私見

ねこの手もかりたい

というのが 田植えどきの忙しさである。春がおくれた、霜とかち合った、手間賃を払う身には めっぽう目に上る、それよりも融通してこられる人手がない、とあれば 家の中のねこの手ならぬ人手は 使わなければぼうそというものである

たのまれれば何とやら……

たのみにされるということは 嫌なこととは限らない そう悪い気はしないものである。まして一家のくらしにかかわることであってみれば 家族の一員として身に応じた献身をするのはごくあたりまえのことであろう。生活力はおのずから身につく。

こまぎれは上等であるか

こまぎれは下等とは限らない。こまぎれでなければならないような効果だってあるのである。一般にはこまぎれは上等ものではないと思われているのである。授業日もなるべくこまぎれにしたくないし、何より油ののって来た時期で中間テストやら、競技大会をひかえてのクラブ活動のかき入れどきでもある。中断するには あまりにも惜しいのである。

調べてみると

田植え休みを必要とする数は 生徒数の五割四分。このことは 数年来の傾向からは はずれていない。が然し 労働力の需要のかたよりは 田植え、刈り入れが画期的変ぼうを遂げないうちは解消しないであろうし、家ろ、農村の人手不足は更に深刻化する傾向にある。

さて

中学生諸君は 田植え休みをどのように過したであろうか。

○休みまえの調べ
家業を手伝う 三三五
手伝いに行く 三七
別に仕事がない 七八

○終っての調べ
家の手伝い 三一九
手伝いに行った 七三
特になし 六一

特になしの諸君は、校地整備に奉仕してくれた。かわりの授業は 二学期の始業を早めて行うことにしてある。（文責 石田）

▼山の会近況▲

春山訓練を省りみて

期首の計画とはいくらか日時がずれたが、春の雪上訓練を五月二日三日の両日、日大OBの徳坂、森山両氏を招いて、谷川岳マチガ沢において行われた。これから春山と冬山と雪に親しまなければならない。皆々にとって必ず受けなければならない講習だ。今冬の遭難の大半も一般社会人で占め、統制訓練を受けている学生団体には少ない。一日目は雪上歩行、ピッケルによる滑落停止訓練。二日目はザイルワークを中心に行われたが、快晴の一日目とくらべて二日目はどしゃ降りの中、ザイルでの確保、滑落停止訓練、失敗すれば何百米の滑落もはなはだしい、雨と汗とでぬれてもくい下る皆の熱意には頭の下る思いだ。この真剣さがあれば、我が川口山の会からは不名誉な山岳事故はあり得ないと確心する。今回は一部の人しか参加出来ず残念だったが、参加出来なかった人は来年からの講習には是非参加するように。女子も愉快にやっている。なにも大げさなむつかしいことではないし安全な山旅をするにはこの位は当然やっておかねばならない基礎技術の一つでしかない。後半は雨にたたかれたがこれも一つの経験として、今にしてみればかえって用をなした訓練をしてよかったと思われる。このようにして山の会もこれからも一層皆様の理解ある支援と共に歩を進めて行きたい。

中の岳裏中登山を七月下旬に行います。多数の参加期待致します。尚新しく入会希望の方は歓迎致します。

森山正夫